

沖縄の地にひとり、中学教師が出かけ、あの戦争の体験者たちから聞いた話。

「<sup>つた</sup>え部<sup>へ</sup>」として伝えたい気持ちを綴った「日記」はA4版で3冊。

## 「座間味旅日記」を聴く会のご案内

—座間味旅日記— 「集団自決」の現場を訪ねて

### お話 津田憲一さん (神奈川県大和市立上和田中学校教師)



現地で出会った多くの方々の温かさ、限りなく青い海と青い空とは相いれない座間味の「おじい、おばあ」の忘れることのできない過去の出来事を、津田さんに話していただきます。

とき 2011年8月6日 (土)14:00~16:00

ところ 長崎高教組会館 大会議室(4階)

主催：長崎県教育関係者九条の会

連絡先：長崎県教育関係者9条の会  
事務局：森文明

Eメール：ngsed9jou@yahoo.co.jp

日記は、こんな風には書き始められています。

「2007年夏、私は沖縄ツアーの帰りに、故郷の長崎に飛ぶ予定でした。しかし台風の九州接近で三日間の足止め。その時安易に？「那覇から一番近い島」を選んだのが渡嘉敷島との不思議な“縁”のはじまりでした。私はそこで「集団自決」の“生き残り”ともいふべき、七人のオバアたちと出会います。

その年の秋には、渡嘉敷島から見た座間味島に行きました。そこで聞いた「証言」は、09年2月と再訪後の7月に、それぞれ冊子化しました。そのとき、渡嘉敷島の出来事も何かまとめねばと思いました。

それは謝花直美<sup>しゅはな</sup>さんの言葉（『証言 沖縄「集団自決」—慶良間諸島で何が起きたか』岩波新書）を思い出すからです。

私たちは、みなさんに呼びかけます

「長崎県教育関係者9条の会」にご参加ください  
平和への願いや思いを、多くの国民が主権者としてしっかりと意思表示しないと、再び戦争の道に進んでしまいます。お互いの立場や信条はさまざまですが、「9条だけはどうしても守らなければならない」という一点で、手を結びたいと思います。

平和を望む教育関係の方々に、この会に多数参加されますようころから呼びかけます。

